

# 夢二の旅路

画家の夢・旅人のまなざし

2024.1.5 ▶ 3.31

《約2000点》  
の夢二作品で巡る旅



①初旅 1914年(大正3)

明治から大正期にかけて日本の交通網は大きく発達しました。「初旅」は口絵として女学生や若い主婦向け雑誌の新年号に掲載され、旅行文化の大衆への浸透が感じられます。

広報図版をご使用希望の場合は、「画像使用申込書」に必要事項を記載の上、FAXで当館にお送りください。

竹久夢二美術館

## ごあいさつ

大正ロマンの画家・詩人として知られる竹久夢二(1884-1934)は、生涯の多くの時間を旅に過ごし、制作のインスピレーションを受けました。東北から九州まで訪れた土地は数多く、晩年には2年4か月をかけて欧米を回る外遊を経験しています。見知らぬ土地をさまよいながら、夢二は自らの孤独や愁いを作品に表現し続けました。

旅を重ねる一方で夢二は、新鮮な感受性をもった旅人の視点で日常の物事をも見つめ、様々な驚きや発見を制作に反映しました。また、異国情緒あふれる作品には夢二の豊かな想像力が発揮され、独自の世界が表れています。

本展では、旅に憧れを抱いた少年時代の思い出から、長年願っていた外遊まで、夢二の旅の軌跡をご紹介します。

## 竹久夢二

明治17年-昭和9年(1884-1934)



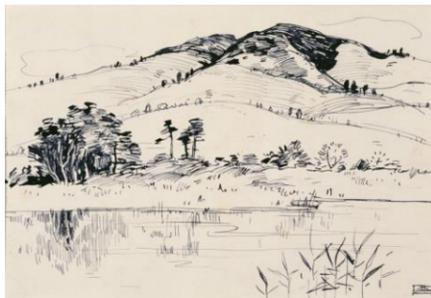
岡山県出身の画家・詩人。本名・茂次郎(もじろう)。雑誌投稿から明治38年(1905)末にデビューし、コマ絵や挿絵を数多く描き、センチメンタルな夢二式美人画を生み出した。画壇に属さず、日本画・水彩・木版画等で日本の郷愁と西欧のモダニズムを自在に表現した。また、詩や童謡も創作し、グラフィック・デザイナーの先駆けとしても活躍した。

## 展覧会の見どころ・広報図版紹介

### 1. 作品約200点より

国内20か所・海外6か国にみる夢二の旅を紹介

静岡県・神奈川県境



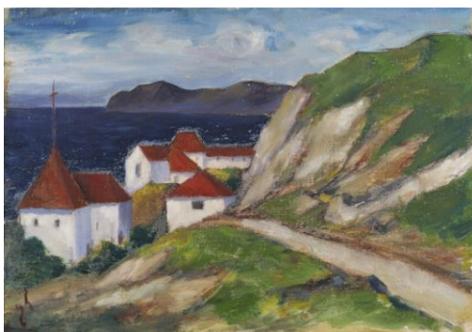
②「少女峠」口絵 1909年(明治42)

群馬県 榛名山



③榛名早春 昭和初期

アメリカ カリフォルニア



④モンレーの丘から 1931年(昭和6)

夢二が国内外各地を訪れ、描いた作品を写真資料や夢二の言葉を添えて紹介します。生涯をかけた旅から夢二が見出し、洗練させた美の表現を、まとめてご覧いただける展示です。

ドイツ ベルリン



⑤水竹居 1933年(昭和8)

### 2. 旅と漂泊にロマンを見た夢二の生き方に迫り、制作の背景もひも解く



⑥『夢二画集 旅の巻』カバー 1910年(明治43)

夢二は、幼少期に経験した旅芸人や巡礼者との交流から、故郷の外に広がる世界に興味を持ち、旅を暮らしとする生き方に憧れを抱きました。

また、夢二は神戸での中学時代に英語やキリスト教を知り、外国渡航を夢見るようになりますが、晩年の外遊実現まで、想像力を働かせて独創的な外国風景を描きました。

『夢二画集 旅の巻』には、明治末期の夢二の富士登山と、金沢への旅行記が収録されています。



⑦セノオ楽譜 ヴェニス船唄 1925年(大正14)

夢二は常に新鮮な感覚で物事をとらえ制作しようと、引越や旅を重ね、移動の多い生涯を過ごしました。

自らを流人(るじん)・愁人(しゅうじん)・コスモポリタンなどと称した夢二は、旅を通して自身の孤独や愁いと向き合い、一般社会から離れた位置より生活や人間を見つめ、描き表した作品を多く残しています。



⑧無題『夢二画集 夏の巻』より 1910年(明治43)

### 企画展初特集コーナー

◆ 旅先からの便り  
滞在地から送った  
夢二直筆の手紙

◆ 夢二のりものづくし  
船(舟)、汽車、馬と馬車、  
飛行機、人力車を描く

## 展示構成

◆ 旅への憧れ  
故郷を訪れた旅人たち  
(巡礼、旅芸人を中心に)  
夢二初めての旅 四国・小豆島

◆ 異国との出会い  
中学時代の夢二と神戸  
英語・キリスト教

◆ 夢二がめぐる日本各地  
福島、新潟、京都、奈良、滋賀  
静岡、群馬、石川、富山、秋田  
山形、大分、福岡、長崎、栃木  
茨城、千葉、埼玉、神奈川

◆ 歌にみる異国  
セノオ楽譜表紙絵の世界

◆ 旅と生き方  
愁人、流人、コスモポリタン…  
漂泊に生きた人生

◆ 外遊に美を求めて  
欧米で描いた作品と写真

(読み下し)  
旅から旅へ  
その日暮らしの  
日の暮れに  
ふっと寂しい  
永遠を見る  
夢二



⑨旅から旅へ 大正期

遠い山を見つめる男性は、夢二自身の自画像のようです。夢二は旅の哲学を、詩やエッセイなどの文芸作品にも表しました。

# 展覧会概要

## 展覧会名称

夢二の旅路 画家の夢・旅人のまなざし

## 主催及び会場

竹久夢二美術館

## 住所

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

## Tel

03-5689-0462

## 会期

2024(令和6)年1月5日(金)~3月31日(日)

## 休館日

月曜日(1月8日、2月12日(月・祝)開館)  
1月9日、2月13日(火)。

## 開館時間

午前10時~午後5時  
(入館は4時半までをお願いします)

## 入館料

一般 1000円 大・高生 900円  
中・小生 500円  
※弥生美術館と二館併せてご覧頂けます。

## 交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び  
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩7分  
JR上野駅 公園口より徒歩20分



## ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

担当学芸員による  
ギャラリートーク開催

1/20(土)・2/17(土)・3/16(土) 午後2時より



⑩展覧会チラシ

## 展覧会特別メニュー

美術館併設の「夢二カフェ 港や」では、  
夢二が外遊中に思いを馳せた日本の桜を  
イメージし、企画展期間限定で桜餅を提供  
いたします。



甘さひかえめの小豆餡(発酵あん)と白あん  
2色の手作り桜餅です。

## 竹久夢二美術館

平成2年(1990)開館。都内で夢  
二作品を鑑賞できる唯一の美術館で  
す。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在  
した「菊富士ホテル」がかつてあり、ま  
た最愛の女性、笠井彦乃と逢瀬を重ね  
た場所、今なお昔の風情を留めて静  
けきと木々の緑に包まれています。  
当館では約3300点の所蔵作品よ  
り、年4回様々  
なテーマで企画  
展示を実施して  
います。



## 展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 徳重美佳 までお願いいたします。

tel 03-5689-0462 fax 03-3812-0699

FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 徳重 行

# 夢二の旅路

画家の夢・旅人のまなざし



## 画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

### 通信欄

#### 画像データの提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。  
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

#### 読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

#### 掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 徳重宛